埼玉協同病院だより　●私たちの医療理念●　～人権をまもり、健康なくらしに役立つ医療を、地域とともにつくります～　発行：埼玉協同病院

季刊

ふれあい

夏号　2019年 6月　No.18

〒333-0831　川口市木曽呂 1317
Tel.048-296-4771　Fax.048-296-7182
ホームページ：http://www.kyoudou-hp.com

特集　協同病院の救急医療

救急診療委員会のメンバー

3月16日 土曜日　「子育て市民公開講座」を開催しました。

3月16日土曜午後に「子育て市民公開講座」をイオンモール川口前川サイボーホールで開催しました。

小児科医師より家庭で起きやすい子どもの事故の話を聞いた後、食事相談コーナー、遊びコーナー、歯磨きコーナー、子育てサークルコーナーなどに約110名が参加しました。

参加者からは、「専門家の話を聞けて良かった」「これでよいのか？という疑問が少し安心へ変わりました」など、参加してよかったという感想が寄せられました。

協同病院の救急医療

地域の“駆け込み寺ER※”を支えるチームワーク

※　ER=Emergency Room／救急患者を受け入れて治療する救命救急室の略

守谷 能和　医師　救急・総合内科科長、内科副部長

埼玉協同病院は「二次救急指定病院」です。入院や手術を必要とする重症の患者さんの救急医療を24時間体制で担っています。その最前線で活躍する救急科(ER)。地域の中で救急医療に力を入れていくという病院方針のもとで専任の救急医として働く守谷医師に、救急科の役割を聞きました。

地域の“駆け込み寺”として

埼玉協同病院には、川口市や、近隣のさいたま市など県下から多くの患者さんが救急車で運ばれてきます。2018年度の救急搬送は、病院開設以来最高の4,110台。地域の救急医療を支える、重要な役割を担っています。

「私たち救急スタッフの使命は、緊急性のある患者さんをいち早く診ることです。救急車で搬送される方だけでなく、外来の患者さんや、入院中に急変した患者さんにも対応します。いつ何が起きるかわからないので、勤務中は常に緊張感がありますね」

午後6時。勤務を終え、夜勤担当への引き継ぎを済ませた守谷医師の表情は、心なしかほっとしたように見えました。この日も救急車を何台も受け入れ、処置に追われた1日でした。

「脳出血や心筋梗塞、大動脈瘤解離といった高度な専門治療が必要な患者さん以外は、できる限り搬送を断らないようにしています。救急病院は本来、患者さんを選ぶものではありませんから。不安発作、酔っ払い、経済状況や生活環境が悪化してにっちもさっちも行かなくなり、最終的に救急車で運ばれてくる人……。そうした人を受け入れるのも救急の役割。私たちは、地域の“駆け込み寺ER”でありたいと思っています」

穏やかに語る守谷医師のまなざしには、使命感があふれています。

重要な2つの役割

救急医の重要な役割は主に2つあるそうです。まず、緊急性の判断です。

「119番通報を受けて現場に急行した救急隊から救急要請があると、看護師が電話を取り、患者さんの状態を聞き取ります。それをもとに受け入れ可否を判断するのですが、その時点で緊急性を見極めるのです」

もう一つが、重症度の判断です。

「受け入れを決めて、患者さんが病院に到着したら、まず全身状態を診て、命にかかわる緊急事態を回避します。そして、入院が必要かどうかを判断します。ベッドが足りずにお断りする事態をできる限り避けるよう、病棟の看護師とも連携しています」

世相を映し出す救急の現場

“駆け込み寺ER”として、分け隔てなく受け入れる埼玉協同病院には、実にさまざまな患者さんが搬送されてきます。

「まさに世相の反映そのもの。生活が困窮し、立ち行かなくなった人の増加を痛感します」と守谷医師は言います。

「特に高齢者が多く、家庭崩壊、認知症、社会的孤立といった問題がうかがえます。老老介護や、高齢の母親と中年の息子の介護問題も切実。介護ができなくなった末に救急車で運ばれてくることがあるのです。ものが散乱した部屋の状態で倒れていた人、精神疾患を抱えた人、高齢者の虐待やネグレクト(育児放棄)。日本語が話せない外国の方も増えています」

一般に、社会的弱者や、経済的な問題を抱えている人ほど病気になりやすいといわれます。

「ですから、いくら病気を治しても、元の環境にそのまま戻してしまったら根本的な解決にはなりません。私たちは、病気の背景にある問題に目を向けて、できる限り介入していくことを重視しています」

他では敬遠されがちな患者さんも受け入れ、身体的な治療だけでなく、原因となっている背景を探り支援をする。埼玉協同病院の大きな特徴です。

「気づいてつなぐ」大切さ

そのためには、多職種によるチームワークと、地域との連携が欠かせません。

「患者さんの背景を把握するために、まず、搬送する救急隊とのコミュニケーションを大切にしています。我々が何を知りたいかを救急隊も理解し、症状以外の現場の状況も細かく伝えてくれるようになりました」

病院内での連携も不可欠です。

「救急隊からの情報が足りないときは、看護師が補って聞き出してくれます。緊急性がなく、入院しないで戻っていただく場合も社会福祉士に連絡し、対応を依頼します。救急医療に携わる以上、少しでも地域や世の中の役に立ちたい。地域とのつながりを肌で感じることができ、同じ思いや志をもつスタッフがいる病院だからこそ、できる取り組みだと思っています」

一人でも多くの方が安定した生活を取り戻せるよう、患者さんの問題に気づいて、チームにつなぐ。そのきっかけをつくるのがERだと守谷医師は言います。「気づかずに元に戻すことだけは避けたい」と。

こうした姿勢を次の世代に引き継ぐため、研修医の教育にも力を入れています。

「この環境でしか学べないことが多々あります。私自身、当院で2年間の初期研修をしたことが、医師としての人間形成に大きく影響しました。一人でも多くの医師や医療スタッフが地域に根付いてほしい。それが、医療を通じて地域を良くしていくことにつながるからです。他の病院との連携も大切にしながら、これからも、地域に貢献できる救急医療を目指していきます」

救急コールが鳴ったら

ERの現場は受け入れ要請のコールが鳴り響くと同時に慌ただしく動き始めます。

救急要請の電話を受ける
患者さんの血圧や呼吸状態などバイタルを救命士から聞き取ります。受け入れ可否を判断し、カルテを準備。

救急車が病院に搬入
救急受け入れ口に救急車が到着。急いで医師と看護師が受け入れて救命士からのヒアリングを行います。

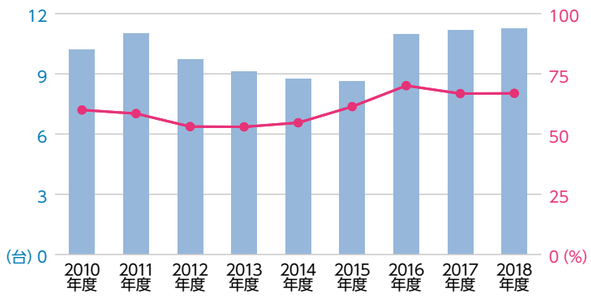
救急室に運んで治療を
命に関わる緊急事態を回避する処置をして、状況把握、診察します。その後、入院が必要なら病棟へ。

ERのデータ

埼玉協同病院の
救急に関係する数字を集めました。

救急車の受け入れが最も多かった年月		救急車の要請が最も多かった年月		最も受け入れの多かった1日
2016年12月	1日受入数	2018年1月	1日要請台数	2016年12月29日
424台	13.7台	758台要請	24.4台	23台

1日受け入れ台数の推移（年平均）　受入率の推移（年平均）



救急の日 県知事表彰 2017年9月8日

2016年度に救急搬送受入件数を大幅に改善した功労者として埼玉協同病院が表彰を受けました。

埼玉県の救急搬送人員は年々増加しており、2016度の実績は約29万7千人と過去最高を記録している一方、救急患者を受け入れる医療機関は減少傾向にあるそうです。

救急車受入件数

2015年度 3,124件、
2016年度 3,986件。その後も、
2017年度 4,081件、
2018年度 4,110件と増加しています。

他院に救急搬送されたときどうすれば？

細萱 久美
事務
地域連携課
副主任

Q 協同病院に転院したい相談はどこに？

入院されている担当の先生、担当看護師、医療相談員へ相談をお願いします。

病状的に転院が可能であれば、直接、協同病院へ連絡が入ります。協同病院で受け入れできる病状であれば、ベッドを調整の上、入院されている病院へ連絡させて頂きます。

Q 転院の手続きは？

病院同士でのやりとりになるため、ご本人、ご家族自身での手続きは必要ありません。

転院が決まり、改めてご家族との面談等が必要な場合には協同病院より別途連絡させていただきます。

Q 転院の時の交通手段？

病状的に救急搬送になる場合もありますが、基本的には公共機関や自家用車または介護タクシー等での移動になります。介護タクシー等の手配は、入院している病院の担当看護師、医療相談員へご相談ください。

※尚、ご本人の病状によっては、受け入れ出来ない場合もありますので、ご了承ください。
※回復期リハビリテーション病棟の転院の場合は、一部手続きが異なります。まずはご入院の病院へご相談ください。

救急医療を支えるスタッフ

救急医療の現場を支えるそれぞれのスタッフに聞きました。

医師の判断に必要な情報を先まわりして聞き出します

いつ救急車が来てもいいように、必要な機器や物品を欠かさず点検しています。救急隊からの受け入れ要請電話を受けるのも私たち看護師です。患者さんの名前や症状などのほか、同乗者の有無や生活環境など、医師が必要な情報を十分に聞き出すことを心がけています。過不足なく医師に伝えることで、受け入れ可否の判断にかかる時間を少しでも短縮して症状から予測される検査、処置の準備をして到着を待ちます。限られた時間で何ができるかが問われる救急医療は、とてもやりがいがあります。

渡邉 千賀子
看護師
外来看護科Ⅰ
副主任

すばやく、かつ正確に到着までにカルテを準備

医師が受け入れを決めると、看護師が、救急隊から聞き取った内容をメモした「受け入れシート」を受付カウンターに持ってきます。そのシートをもとに、救急車が到着するまでの数分間にカルテを用意するのが事務の仕事。どんなときも救急対応を最優先に、瞬時に動きます。当院での受診歴を調べ、住所や名前、生年月日などを仮登録。到着後、内容を確認します。スピード感と正確性を心がけながら医師や看護師との連携を密にしています。また、患者さんやご家族、付き添いの方の不安を和らげ、寄り添うことを大切にしています。

長谷川 哲也
事務
外来医事課
主任

日々、工夫しながら緊急用のベッドを確保します

緊急入院が必要になっても、空いているベッドがなければ入院が難しくなります。そうした事態にならないよう、毎朝、「空床報告会」を行い、ベッドの調整を図っています。緊急の患者さんにはなるべくナースステーションに近い病室に入っていただきたいですが、今いる患者さんを移動できない場合もあります。状態が落ち着いてきた方には少し遠い病室に移っていただくなど、工夫と葛藤を繰り返しながら、毎日、午前と午後にベッドを移動。安心して入院していただけるよう努めています。

大森 有紀
看護師
D4病棟・HCU看護科
看護長

どんな人が運ばれてきても、その人の権利を放棄させない

竹本 耕造　社会福祉士　医療社会事業課　課長

無差別平等を掲げる埼玉協同病院は、生活上の困難を抱えている人も救急で受け入れています。医師や行政と連携して支援に取り組む、院内の社会福祉士に話を聞きました。

――どのようなときに支援をするのですか？

埼玉協同病院には社会福祉士が11名おり、患者さんやご家族の生活上の問題解決を支援しています。救急でも、家がない、身なりが清潔でない、お金がない、保険証がない、身寄りがない、認知機能が低下している、精神疾患があるなど、病気やケガの症状を取り除くだけでは解決しない方が搬送された場合、救急医や事務から支援を求められます。

――どのような事例がありますか？

長年、ホームレス生活を余儀なくされていた中高年の男性が緊急入院されました。医療費、住まい、生活費の問題を抱えていたため、治療と並行して生活保護を申請し、地域の社会福祉士会を通じて住宅ソーシャルワーカーに協力を依頼。住まいを確保できました。病気も治り、現在は一人暮らしをされています。救急車で搬送される方のうち、こうしたケースが年10件ほどあります。

――支援の際に心がけていることは？

生活上の困難を自己責任ととらえるのではなく、背景を把握し、対策を考える。それにより、その人の権利を守ることを第一に考えています。

すべての国民は、日本国憲法第25条で保障された「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を有しています。この権利は「生存権」と呼ばれ、生活保護など、社会保障の憲法上の根拠となっています。

例に挙げた男性も、当初は家族や親族への扶養照会を恐れて生活保護申請を嫌がっていましたが、扶養照会は必ずしも必要ではないことを話すと安心されました。保険料を払っていないから健康保険や介護保険の制度を使えないと思い込んでいる人もいます。しかし、憲法第25条には、保険料を払っていない人には権利がないとは書かれていません。利用できるはずのものをあきらめさせてしまうことにならないよう、支援する側や行政担当者が確かな知識をもち、ものの見方をしっかりしておくことが大切だと思います。

お金がないから、保険証がないから病院に行けないというハードルをなくしたい。困ったときは相談してほしいです。当院だけでなく、他の病院や行政担当者、地域の社会福祉士とも協力して、トータルで問題解決にあたっていけるようになるのが理想であり、課題です。

受け入れ可否の判断が早く、とても助かっています

松井 靖さん　救急救命士　川口市消防局　救急隊

私の勤務する川口市北消防署は、川口市内で2、3番目に出動数が多く、多いときには1日に8～10件、救急車が出動します。老人ホームなどの施設が増えていることもあり、高齢の患者さんが増えている実感があります。

中でも、埼玉協同病院には多くの患者さんを受け入れていただいており、感謝しています。特に感じるのは、受け入れが可能か否かの判断が早いこと。医師と看護師さんの連携が密にとれている証かなと感じています。受け入れ先が早く決まると、患者さんも私たちも安心できるのでストレスも減ります。「患者ファースト」の観点からも、とてもいいことだと思います。

協同病院の救急医である守谷先生への信頼感も強いです。話しやすい雰囲気の温かいお人柄で、どのような患者さんでも「まずはうちで診るよ」とオープンに受け入れてくださる。ありがたいといつも感じています。病気や症状だけでなく、現場で見聞きした生活状況なども、守谷先生には積極的に伝えるようにしています。先生がどんな情報を望んでおり、どのように患者さんに接するかを知っているからです。協同病院は、私たちにとっても“最後の砦”。これからもよろしくお願いします。

病院外から見た埼玉協同病院の救急医療

埼玉協同病院の救急医療について、地域の消防署の救急隊員の方や、患者さんのご家族は、どのように感じているのでしょうか。それぞれのお立場で、率直なご意見や体験談を語っていただきました。

差額ベッド代もなく、安心できました

大熊 洋子さん　組合員

長年、糖尿病を患っていた夫の状態が悪くなり、救急車を呼んだのが今年1月のこと。ベッドから何度も落ち、精神的にも不安定になり、二人暮らしの私には支えきれなくなったのです。119番に電話しましたが、どの病院に運ばれるかはわかりません。他の病院では差額ベッド代がかかるので、生活に余裕のない私たちには不安です。救急車が到着し、協同病院に受け入れが決まったときは、心からほっとしました。

検査などの待ち時間が長くてつらかったですが、ベッドを用意していただき、そのまま入院できました。夫は残念ながら亡くなりましたが、組合員として、ともにつくってきた病院で最後まで診ていただけたことに感謝しています。

専門医シリーズ17 SERIES

肥田 徹
医師
透析科科長・
D4病棟医長

透析をする方が元気でいられるよう力を尽くす

日本で人工透析を受ける患者さんの数は30万人を超え、年々増加しています。埼玉協同病院でも、年間約36人の方が新たに透析を始めています。安心して透析治療を受けていただくには、確かな技術と知識、そして互いの信頼関係が欠かせません。協同病院の透析を担う専門医、肥田徹医師に聞きました。

プロフィール
日本内科学会総合内科専門医
2008年モスクワ大学　医学部卒業、2008年埼玉協同病院入職、2017年埼玉医科大学総合医療センター　専門研修、2018年埼玉協同病院

ロシアで医学を学び32歳で医師に

肥田医師の経歴は一風変わっています。「書かなくていいよ」と本人は多くを語りませんが、日本の大学で経済を学んだのち、ロシアに留学。チェチェン紛争で悲惨な戦争状態だったモスクワで医学を学び、医師免許を取得しました。帰国後、日本の医師国家試験に合格し、埼玉協同病院に入職したのが32歳のときです。

「当時はまだ、日本語の医学用語もよく知らなかった。そこからスタートし、２年間、初期研修医として内科や外科を経験。最終的に、透析の専門医になることに決めたんです」

透析医を選んだのは、研修で指導を受けた清水禮二医師（元・埼玉協同病院副院長）の影響だったそうです。

「尊敬できる先生で、その先生のもとで透析の患者さんを受け持ちました。透析治療は、腎臓の機能が低下し、体内の水分や老廃物のコントロールができなくなった患者さんに対して行います。腎臓のはたらきを機械が代替するのですが、患者さんの状態に合わせて機械を調整し、適切に動かすのは医療スタッフの役目。１人として同じ状態の人はいないし、その日の血液検査の結果によっても変わります。それを自分自身でコントロールできるようになれたらうれしいなと思った。いや、コントロールというのは失礼かな……」

ぶっきらぼうなようで、患者さんを思う気持ちが言葉の端々からうかがえます。まっすぐな人柄が感じられました。

チームワークが必須の透析治療

透析治療とは、そもそもどういうものでしょうか。

「透析が必要になるのは、末期腎不全の患者さんです。腎代替療法には、血液透析、腹膜透析、腎移植という３つの選択肢があります。それぞれのメリットとデメリットを説明し、患者さんに選択してもらいます」

日本で実施されている透析の97％が血液透析です。針を介して体内から血液を取り出して透析器（人工腎臓）に送り、水分のコントロールや老廃物の除去を行い、きれいになった血液を体内へ戻す方法です。

「当院で行っているのも血液透析ですから、多くの方が選ばれます。腹膜透析や腎移植を選んだ方には、大学病院などを紹介します。血液透析を選んだ方には、どんな場所でどのように行うのかを説明し、理解できたところで、透析をするために必要なシャント手術を行います。静脈と動脈を縫い合わせて、血液を抜きやすくするんです」

手術が終わると、１回４時間、週３回の透析が始まります。ここで重要なのがチームワークだと肥田医師は言います。

「透析は基本的に、医師、看護師、臨床工学技士の三者が連携しないと成り立たないんです。看護師は患者さんのケアをしながら、透析中に問題がないかを見る。臨床工学技士は、透析装置や水処理装置などの機器を動かし、水を管理してきれいな透析液をつくる。医師はそれらすべてをマネジメントする。透析は、医師だけではできないのです」

緊急透析が必要な救急患者も受け入れる

末期腎不全の治療のために日常的に透析をする「維持透析」をしっかり導入することに加え、ほかの病気やケガで入院が必要になった患者さんへの維持透析や、急性腎不全の患者さんの緊急透析を行っているのも埼玉協同病院の特徴です。

「川口市には、入院して透析できる急性期の総合病院が３つしかありません。地域の中で重要な場所になっているのは確かです」

どのような患者さんにも対応できるよう、肥田医師は、透析に必要な技術を高める努力を欠かしません。

「難しい症例を多く扱う埼玉医科大学に昨年まで毎日通い、手術や緊急透析を繰り返し研修しました。現在も非常勤で週１回勤務し、手術を重ねています」

透析を続けていると、血管が細くなって血液の流れが悪くなるなどの不調が出てきます。そうしたときに肥田医師が行うのは、細くなった血管を太くするVAIVT（バイブト）というバルーン拡張術。難しい血管内の手術です。

「成功させるには、技術が絶対に必要。経験とセンスがものをいいます。私も最初は下手でしたが、勉強して練習して、大学に行って周りの人にも教えてもらって、レベルアップしてきました。いまも毎日が勉強で、終わりはありません」

透析ができる限り我々は絶対にやめない

人工透析の導入にあたっては、困難に直面することも多いといいます。患者さん本人の承諾が必要ですが、本人や家族が「透析をしたくない」という場合が少なくないのです。

１回４～５時間ずつ週３回、医療機関に通うことになるので、透析が必要だと告げられると、人生が半分くらい取られてしまう気がするんです。その気持ちはよくわかります。でも、透析をしないと長くは生きられないことは明白なのです。

90歳以上と高齢で、認知症のある患者さんに透析をするかというと難しく、ご本人と家族、我々で話し合い、導入しないと決めることもあります。

しかし、まだ若い方の場合、我々としては少しでも早く腎代替療法を始めてほしい。承諾されるまで、何度も繰り返し説明します。

信頼関係で結ばれ長い時間を共に

お話を聞いていると、技術だけでなく、患者さんや家族とのコミュニケーションがいかに重要かが伝わってきます。

「納得し、信頼していただくために、それぞれの方に合わせて話し方を変えるなど、常に工夫しています。透析医は、患者さんと長い付き合いなんですよ。うちに通っている人たちとは10年の付き合い。週に15時間一緒に過ごすので、家族に会う時間よりも長いです。患者さんは、機械と、我々の腕に身を任せていますから、信頼関係がなければ成り立ちません。私だけでなく、医療スタッフ全員との信頼関係が密なんです」

最後に、忘れられない患者さんはいますかと聞くと、こんな答えが返ってきました。

「全員です。我々は、ご本人が元気でいられるように力を尽くす。その毎日が大切なんです」

こちらHPHです！

※ HPHは、健康増進を患者さま・地域・病院職員ですすめていくWHO（世界保健機構）が推奨する国際的な病院ネットワークです。

医療生協さいたま南部地区主催　川口市後援 WHO世界保健デー in アリオ川口

WHO世界保健デーは毎年アリオ川口に会場をお借りして開催しています。今年は握力・開眼片足立ち・指輪っかテストの３種類を「フレイルチェック」として行いました。はじめての試みでしたが、リハビリ職員のアドバイスもありスムーズに出来ました。

骨密度測定と合わせた結果をもとに医師・保健師・看護師が健康相談、管理栄養士が栄養・食事相談を担当しました。川口市保健センターからは保健師さんが川口市健康診断のお知らせと合わせて「フレイルチェック」相談にも対応していただきました。

組合員活動紹介コーナーへの担当組合員を増やして配置し、川口市内の組合員活動をその場で紹介することにしました。入学式の日だった事もあり、親子連れの参加もありました。午前・午後と合わせて182名の「フレイルチェック」が出来ました。WHO企画をきっかけに健康なまちづくりを行政と一緒に出来たらと思います。

（さいわい診療所　伊藤）

ご存じですか？

がん患者のさん 治療と仕事の両立支援

医療生協さいたまキャラクター ココロ星にくらすココロン

「総合サポートセンター」の年間約１万件の相談件数のうち、がんに関わる相談は約1000件です。私たちが相談対応する治療と仕事の両立支援とは、仕事の斡旋ではなく、がんにかかっても治療をしながら仕事を続けようとされる方のサポートです。治療期間や治療内容の見通しがつかない不安や経済的な問題もあります。

職場ではどんな部署でどんな仕事をしているのか、仕事に対する本人の思いはどうか、生活環境などもお聞きし、問題を整理し休職・復職のための条件整備や手立てを一緒に考えます。病状や働き方を会社にどう伝えるか、ご本人の了承を得たうえで直接医師が職場の方にお話をさせていただく場合もあります。

埼玉県や厚生労働省には事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドラインがあります。これらを踏まえ、地域の開業医の先生方とも連携し働き続けながらの治療の可能性を探ります。

まずはあきらめずに相談してみてください。

社会福祉士　田原 環見

研修医紹介

Introduction of the resident

今年度入職した
新しいドクターです。
よろしくお願いします。

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧

①古関 匠（こせき たくみ）
福島県立医科大学卒
２年間、同期と助け合いながら楽しく頑張りたいと思います！

②橋本 弥生（はしもと やよい）
東京女子医科大学卒
患者さんに頼ってもらえるように猛勉強する！

③黒須 友理香（くろす ゆりか）
東京女子医科大学卒
明るく元気に、仕事を楽しみながら頑張りたいと思います！

④外川 加奈子（とがわ かなこ）
山形大学卒
昔から住んでいる所で医師として働くことができ嬉しいです。

⑤富山 桃子（とみやま ももこ）
北里大学卒
大好きな地元、埼玉の地域医療に貢献できるよう一生懸命頑張ります。

⑥瀧井 未来（たきい みく）
岐阜大学卒
患者さんに、地域に、寄りそう温かい医師を目指して参ります。

⑦田中 栞（たなか しおり）
秋田大学卒
患者さんや周りの方の気持ちに寄り添えるようにがんばります。

⑧住田 純（すみだ じゅん）
聖マリアンナ医科大学卒
医師としての基礎を身に付け、責任感を持ち精進していきます。

たまねぎベービーといっしょに

夏休み

間もなく暑い夏とともに子どもたちが待ちに待った夏休みがやってきます。子どもにとっては楽しみな夏休み、でも大人にとってはちょっと憂鬱だなと感じる方も多いのではないでしょうか。夏休みだからといって何か大きなイベントを企画しなくても、早起きして公園で昆虫とり、など小さなことでも普段できないことをやってみるチャンスです。子どもにやってみたいことなどを聞きながら、一緒に計画を立て、有意義な夏休みが過ごせるといいですね。

夏休みを楽しく過ごすための10ヶ条

①早寝、早起き、しっかりご飯！　規則正しい生活を崩さない！
②１日の予定を立て、勉強やゲームの時間もしっかり決めて自主性を育もう！
③夏休み全体の予定を立て、宿題なども計画的に進めよう！
④夏休み中にやり遂げたい目標を決め、達成感を！
⑤年齢に合わせて毎日できるお手伝いを任せてみよう！
⑥ラジオ体操やプールなどで体力作りを！
⑦涼しい図書館で読書の習慣を！　小さな子には読み聞かせで本に親しみを！
⑧夏祭りや花火大会など地域のイベントにも参加しよう！
⑨普段できない経験や小さな冒険にも挑戦しよう！
⑩熱中症や事故予防もしっかりと！

親子で素敵な夏を過ごせますように！！

増田院長の 今日もニコニコ VOL.18

院長
増田 剛

救急は社会の窓。当院の実力が試されます。

急性期・救急医療は当院の基本方針の大きな柱の1つです。救急医療を継続・発展させるためには、常にヒトとモノが稼働できる状況を準備しておかなければなりません。度重なる診療報酬の抑制と慢性的な人員不足の中で、救急医療を継続させることが出来ず、この分野から撤退する施設が少なからずあるのが現状です。特に医療資源が少ないこの地域での当院の役割は大変大きいと感じています。また、救急医療の現場は、一般診療では見られないような、厳しい社会の現実が露呈する場所でもあります。お金も保険も無いため必死で受診を我慢してきた病人が、疼痛や苦しさを堪え切れなくなって救急要請をし、その人の生活全般を引き連れて救急室に運び込まれるのです。救急処置をして終わり、という訳には到底いきません。専門的医療技術、情報収集、社会資源活用、チーム医療など、当院の本当の実力が試される場面なのです。まだまだ発展途上ですが、確実に前進している当院の救急医療の現場を是非ご覧下さい。

今年入職した看護職員のローテーション研修を行いました。昨年度に続き入職時オリエンテーション、技術トレーニングに続いてグループに分かれて看護職場を順番に体験就労後、各職場へ配属されました。

虹の投書箱だより

投稿のご紹介

健康診断で再検査と婦人科へ持参するようにとの封書があり、悩んでいたら地元の友人より「婦人科なら協同病院だよ！」といわれました。予約の電話をしたところ、月曜夜間診察をしていることがわかりました。会社員にとってはすごく助かりました。そこで運命的な出会いをした先生。すごく優しく丁寧な説明と診察。二回の手術も安心して乗り切ることができました。悩みごとを聞いてくれた看護師さん、毎日きれいに掃除してくれたスタッフさん。皆さんに感謝です。

この度は嬉しいご意見をいただきありがとうございます。婦人科なら協同病院と言って下さったご友人がいらしたこと、働いている人のために始めた夜間診が地域の方のために役立てていると知り、医師、スタッフ一同とてもうれしく思っています。また、診察や入院中も安心して過ごすことができたと、この上ないお言葉を頂き本当にありがとうございました。

（前 C3 産婦人科病棟 看護長　英岡 和香子）（現看護副部長）

埼玉協同病院だより ふれあい 夏 No.18

埼玉民医連
発行：医療生協さいたま 埼玉協同病院

〒333-0831　川口市木曽呂 1317　Tel.048-296-4771　Fax.048-296-7182　ホームページ：http://www.kyoudou-hp.com